

# 講 習 詳 細 情 報

必修領域	選択必修領域	選択領域
2 講習	6 講習	16 講習

※対象職種にご注意ください。

※対象職種に該当していれば受講できますが、「主な受講対象者」と講習の内容を参考にして、受講する講習を選択してください。

※各講習は、1名～複数名の講師で担当します。

※所属名を記している場合の所属先は、すべて令和2年度現在です。

※所属名を記していない講師は、すべて令和2年度現在の本学教員です。

## 必修領域

☆主な受講対象者(学校種) 幼:幼稚園, 小:小学校, 中:中学校, 高:高等学校, 特:特別支援学校

☆「A-1」と「A-2」はいずれかを、「主な受講対象者」に合わせてお申し込みください。

コード番号	講座名	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
A-1	教育の最新事情	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	幼・特(幼)
講師		内容		
山田 千明 (共栄大学)  藤村 祐子  渡部 雅之  中井 清津子 (相愛大学)		必修領域の「国の教育政策や世界の教育の動向」, 「教員としての子ども観, 教育観等についての省察」, 「子どもの発達に関する脳科学, 心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」, 「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について, 4つの講義内容を設定し, これまでの研究から得られた知見をもとに講義する。  a: 国の教育政策や世界の教育の動向【山田】  b: 教員としての子ども観, 教育観等についての省察【藤村】  c: 子どもの発達に関する脳科学, 心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。【渡部】  d: 子どもの生活の変化を踏まえた課題【中井】		

コード番号	講座名	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
A-2	教育の最新事情	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小・中・高・特(小中高)
講師		内容		
藤村 祐子  渡部 雅之  今井 弘樹		必修領域の「国の教育政策や世界の教育の動向」, 「教員としての子ども観, 教育観等についての省察」, 「子どもの発達に関する脳科学, 心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。)」, 「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について, 4つの講義内容を設定し, これまでの研究から得られた知見をもとに講義する。  a: 国の教育政策や世界の教育の動向【藤村】  b: 教員としての子ども観, 教育観等についての省察【藤村】  c: 子どもの発達に関する脳科学, 心理学等における最新の知見(特別支援教育に関するものを含む。【渡部】  d: 子どもの生活の変化を踏まえた課題【今井】		

# 選択必修領域 その1

☆主な受講対象者(学校種) 幼:幼稚園, 小:小学校, 中:中学校, 高:高等学校, 特:特別支援学校

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-2	幼児期の教育実践 —指導計画と領域の概念—	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	幼・特
講師：金森 由華(至学館大学)				
はじめに、幼児期の指導計画の今日的課題を学びます。つぎに、指導計画の書き方、指導計画の添削、教育実習評価の方法について、演習を通して理解を深めていきます。最後に、指導計画に関する学びをもとに、具体的な遊びを想定しながら、幼児期の教育内容である5領域の概念を捉えなおしていきます。				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-3	学校をめぐる近年の状況変化と 新たな課題	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小・中・高・特
<p>テーマ：学校教育をめぐる社会の変化</p> <p style="text-align: right;">講師：濱 貴子(富山県立大学)</p> <p>本担当部分では、学校教育をめぐる社会の変化を概観し、学校教育の今後を展望する視点の獲得をめざす。まず、消費社会・情報社会・格差社会の進展による子どもや家庭をとりまく生活環境の変容と現状を把握する。そのうえで、PISA、TIMSS、全国学力・学習状況調査といった各種学力調査より子どもの学力の現状を、また、各種統計調査よりいじめ、不登校、少年犯罪など生徒指導上の諸問題の現状を確認する。最後に、教育改革にかかわる近年の答申・提言等を整理し、学校教育の今後の方向性について考察する。</p>				
<p>テーマ：児童生徒・保護者の変容とこれからの学校・教師</p> <p style="text-align: right;">講師：太田 拓紀</p> <p>本担当部分では、変容する児童生徒・保護者の現状と課題にせまり、今後求められる学校や教師のあり方を考察する。具体的には、コンサマトリー化、多元的自己、クレーム問題といった子ども・保護者の価値観・行動様式の問題や、協働性、自律性などに関わる新たな学校・教師の方向性について取りあげる。子どもと保護者、学校と教師の問題を、社会との関係からとらえなおすことで、各自の教育実践に資する新たな視野の獲得をめざす。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-4	「特別の教科 道徳」の指導と評価の 具体的展開 —子どもたち一人一人をリスペクトする道徳教育の確立—	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	小・中・特
講師：押谷 由夫(武庫川女子大学)				
<p>文科省では、新教育課程に先駆けて道徳教育の抜本的改善・充実に取り組み、その中核として「特別の教科 道徳」を設置しました。従来の道徳の時間を教科化した「特別の教科 道徳」を要に、道徳教育を充実させ、学校を真の人間形成の場にしようとする意図が読み取れます。すなわち、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面实施される新教育課程をリードする役割が課されているということです。</p> <p>特に10年以上の教職経験を持つ先生方にとっては、そのための指導方法を身につけ、後輩に指導していくことが求められます。そのポイントは、人間らしさの基準となる道徳的価値意識から自分を見つめ、道徳的事象や状況に対して自分らしくどう対処すればよいのかを真剣に考え、日常生活や様々な教育活動の中で取り組んでいける力を育てることです。それは、評価と大いに関わります。道徳の評価は、一人一人のよりよく生きようとする心に対する「よいところ探し」です。それらの根底に、子どもたち一人一人へのリスペクト(敬意)があります。</p> <p>様々な課題が山積している学校教育において、その原点は、子どもたち一人一人が人間として成長し、自分らしい未来(人生)を拓いていけるようにすることです。道徳教育は、そのことを正面から追い求めるものなのです。皆さんと一緒に、そのための方法について、具体的に考え、身につけていこうではありませんか。</p> <p>本講習では、このような道徳教育の本質と、学習指導要領が求める道徳教育や、「特別の教科 道徳」の目標、内容、評価について、主体的に理解していただくこと、そして、具体的授業の方法について、実際の教材を基にして、指導案を考え、より効果的な指導を行うためのポイントについて確認し、実践的指導力を身につけていただけるように考えています。</p>				

## 選択必修領域 その2

☆主な受講対象者(学校種) 幼:幼稚園, 小:小学校, 中:中学校, 高:高等学校, 特:特別支援学校

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-5	教育理念を共有しながら進める学校(園)と家庭及び地域社会との連携・協働のあり方	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	幼・小・特
<p>テーマ : コミュニティ・スクールにおける学校(園)と地域社会の連携・協働活動の一体的推進 ～その現状と課題～</p> <p>講師 : 小野 清司(滋賀短期大学附属幼稚園園長)</p> <p>中央教育審議会においては, “よりよい学校教育を通じて, よりよい社会を創る” という理念を学校と社会とが共有し, 連携・協働しながら, 新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であると示している。これらの実現を目指し, 未来を担う子供たちの成長を支えるために, 学校(園)と家庭及び地域社会が学びの共同体としての連携・協働のあり方について, コミュニティ・スクール等の取り組みから考える。</p>				
<p>テーマ : 「教育・保育の質の向上」を求めた学校(園)と地域社会との連携・協働とは ～カリキュラムマネジメントの視点から考える～</p> <p>講師 : 中井 清津子(相愛大学)</p> <p>人間関係が希薄な環境の中で育ちつつある子どもたちが, 社会とつながる力・多様な人々と関係性を創り出す力が育ちにくいのが今日的な課題でもある。このような現状において, 学習指導要領改訂の方向性に示されている内容を重視しながら, 教育システムを捉え直す必要性を再認識しなければならない。地域にある教育資源を媒体にし, 「教育・保育の質の向上」につながる学校(園)と家庭及び地域社会との連携・協働の在り方をカリキュラム・マネジメントの視点から考える。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-8	キャリア教育の実践と進路指導	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	中・高・特
<p>講師 : 若松 養亮</p> <p>2004年から始まったキャリア教育は, 新しい環境へのスムーズな移行支援のために幼児教育段階から通常の教育活動のなかで行うとされています。しかし実際に系統的・計画的な実践は行われない傾向にあり, 職場体験が代用されたり, 職業を意識した働きかけばかりが行われるといった問題点があります。本講習では, キャリア教育の基礎から入り, どのように実践を進めるか, 進路指導とのつながりはどのようなことかなどの解説を通して, 費用対効果の高いキャリア教育と, それに隠れておろそかにならない進路指導を考えます。新学習指導要領との関係も解説します。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者(学校種)
B-9	心のバリアフリーと学校における交流と共同学習の推進	6時間	教諭 養護教諭 栄養教諭	幼・小・中・高・特
<p>講師 : 田村 靖二</p> <p>様々な心身の特性や考え方を持つ全ての人々が, 相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり, 支え合う「心のバリアフリー」では, 私たち一人ひとりが, 正しい社会認識と他者の心を理解しようとするのが大切です。また, 数多くの人々が, 「心のバリアフリー」の大切さを理解し, その実現に向けて協働する社会となるのが重要です。近い将来の社会を担う子供たちが「心のバリアフリー」を学び, 育むことは, 子供たちのみならず保護者や家庭, 地域社会への発信力となるものです。学校では, 学校間の連携を含めて, 例えば, 障害のある子供や障害のない子供が共に生活を学ぶ中で「心のバリアフリー」教育を推進することが求められています。本講習では, 多文化共生社会に向けて, 「心のバリアフリー」について, 共に学び考えていきます。</p>				

## 選択領域 その1

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
C	幼児期における食育	6時間	教諭	幼
<p>テーマ : 食べるという事を考える</p> <p style="text-align: right;">講師 : 原 知子(滋賀短期大学)</p> <p>栄養士・調理師をはじめ保育・教育に関わる方々と一緒に子どもの食生活を支援していくために、子どもの食と栄養に関する基礎的な知識を確認する。さらに、心身ともに健康であるためにはどのような食習慣形成が望ましいのか、生涯にわたって食事を大事にする姿勢をもち実践できるには幼少期からどのような食育の在り方が望まれるのか、について考える。</p>				
<p>テーマ : 幼児の食と生活</p> <p style="text-align: right;">講師 : 前川 頼子(滋賀短期大学附属すみれ保育園園長)</p> <p>心と体の基礎ができる乳幼児期から、食育に取り組むことで食育に関する知識を持ち、健康な生活ができるようになります。そのため保育現場でも食育活動が盛んに行われるようになりました。具体的にどのように向き合ったら良いのかを「食」について考え、何を大事にし、どのような子に育てて欲しいかの視点をもって食育の計画が立てられるか実践を通して考えていきましょう。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
D-1	特別支援教育 I	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・中・高・特・養
<p>テーマ : 障害児病理学のトピックス</p> <p style="text-align: right;">講師 : 江原 寛昭</p> <p>医学的立場から、1) 発達障害、2) 重症心身障害児の医療的ケア、3) 食物アレルギーとアナフィラキシーショック、4) 痙攣および頭部外傷の対応、5) 学校保健の5点に関して、教育現場で知っておいた方がよい事項を概説する。</p>				
<p>テーマ : 障害のある子どもたちと学校生活</p> <p style="text-align: right;">講師 : 羽山 裕子</p> <p>通常学校で学ぶ障害のある子どもたちに、十分な教育を保障するためには、障害特性の把握だけではなく、それが学校という特殊な環境下でどのような困難につながるのか、教育内容の習得にどう影響するのかといった点を知る必要があります。本講習では、各自が日々の実践の中で気付いたことなどに基づきながら、考えていきたいと思えます。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
D-2	心と身体の健康 I	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・中・高・特・養
<p>テーマ : 子どもの生活習慣とその支援 ～誰がいつ何を伝えるべきか～</p> <p style="text-align: right;">講師 : 股村 美里 (びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>子どもの生活習慣が夜型となり睡眠時間が短くなっていることが指摘されて久しい。平成29年には「睡眠負債」という言葉が流行語大賞にもノミネートされ、生活リズムの形成維持に注目が集まっている。子どもの生活習慣、すなわち睡眠、食事、運動は心身の健康と深く関連する。社会的な要因や成長ホルモンによる生活リズムの変容と健康教育の関連を解説するとともに、子どもに、誰がいつ何を伝えるべきか、考える講座である。</p>				
<p>テーマ : 教師のためのストレスマネジメント</p> <p style="text-align: right;">講師 : 多賀谷 智子 (びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>学校におけるストレス・マネジメントがますます重要になってきている。心理学の立場からストレスや感情、行動がおこる仕組みを取り上げ、ストレスへの対処法など、現場で活用できる内容を紹介する。また、認知行動療法の基礎的な技法を習得することで、教員自身のメンタルヘルスの向上にも役立つと考える。ワークを取り入れ、体験していただく予定である。</p> <p>講習では、リラクゼーション技法等のワークを行うため、軽い運動ができる服装が望ましい。</p>				

## 選択領域 その2

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
D-7	日本の漢詩と和歌	6時間	教諭	中・高
<p>テーマ : 日本漢詩にしたいしむ</p> <p style="text-align: right;">講師 : 二宮 美那子</p> <p>国語科で漢文を教える際、日本人が作った漢詩や漢文を取り上げることは、自国の歴史や文化的背景への理解を深めるために有効な入り口だと考えられます。また最近の国語教科書には、中国の古典だけでなく、広く日本漢詩文を取り上げる動きが見られます。一方で、実際の授業でこれらを取り上げるには、なお蓄積が足りない現状も見られます。この講習では、日本人が作った漢詩を主に取り上げ、「外国語」の文学形式である漢詩を、日本人がいかに関わりの文学としてきたか、その足跡をたどります。また、授業の始めには、漢詩の基礎的なルールや技法、背景を確認し、漢詩鑑賞のための様々な観点を紹介します。</p>				
<p>テーマ : 令和と『万葉集』</p> <p style="text-align: right;">講師 : 井ノ口 史</p> <p>2019年5月から用いられるようになった「令和」という元号は、従来とは異なり、初めて日本で書かれた書物から引用されました。出典は『万葉集』です。『万葉集』は飛鳥時代から奈良時代に作られた4500首以上の歌を収める歌集で多くの人に親しまれている古典です。しかし、元号の典拠となった「梅花宴」の序文のように漢文で書かれた作品も含まれていることは意外に知られていません。講習では、8世紀の和歌に加え、山上憶良らが綴った漢文も紹介しながら、『万葉集』の時代の人々が愛した美の世界を読み解きます。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
E-1	特別支援教育Ⅱ	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・中・高・特・養
<p>テーマ : インクルーシブ教育の理解と実践</p> <p style="text-align: right;">講師 : 窪田 知子</p> <p>今日、「障害のある子どもない子ども地域で共に学ぶ」インクルーシブ教育の推進が求められています。多様な教育的ニーズをもつ子どもたちを通常学校で受けとめるために何が出来るか、合理的配慮とは何か、また特別支援学校や特別支援学級で学ぶ子どもたちが地域で共に育つために何が必要かなどを考えていく必要があります。本講習では、こうした視点でインクルーシブ教育の理解と実践について考えたいと思います。</p>				
<p>テーマ : 障害のある子どもたちを理解する - 気づかれにくい視点を通して -</p> <p style="text-align: right;">講師 : 川島 民子</p> <p>発達障害を含む特別な支援を必要とする子どもたちが見せるつまずきの背景として、これまでは気づかれにくかった「感覚」との関連に注目が集まっている。本講習では、「感覚」に関する基礎的な知識を広げた上で、様々なつまずきの姿を知るとともに、その指導支援について考えていきたい。そして、「感覚」の視点からの子ども理解を深めていきたい。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
E-2	保健と体育の今日的課題に対応した指導力を考える	6時間	教諭	幼・小・中・高・特
<p>テーマ : 保健における「主体的・対話的で深い学び」を考える</p> <p style="text-align: right;">講師 : 川合 英之(びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>教育要領、学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」の実践が大きなポイントとなっています。この「学び」の背景を考えながら、保健の学習においては、どのように授業を進めていけば良いのかを考えます。</p>				
<p>テーマ : 運動遊びと体づくり運動から考える、易しい体育的活動とその指導</p> <p style="text-align: right;">講師 : 大西 祐司(びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向は、豊かなスポーツライフの実現に向けて園や学校種を越えて考えていかなければならない問題です。本講習では、新しい教育要領と学習指導要領に基づき、運動が苦手な子の視点に立った教材や指導方法を紹介します。具体的には、体づくり運動とダンスを扱います。</p>				

## 選択領域 その3

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
E-5	資料・データを読む	6時間	教諭	中・高
<p>テーマ : 資料の活用</p> <p style="text-align: right;">講師 : 馬場 義弘</p> <p>中・高等学校では、社会的事象等について調べまとめる技能が重視されています。言い換えると課題解決のために必要となる各種資料を収集・選択するなどの学習活動が求められています。この講習では、具体的なテーマにそくして、必要となる各種資料の特徴と活用について紹介したいと思います。また歴史資料(史料)についても触れてみたいと思います。</p>				
<p>テーマ : 社会調査を学ぶ</p> <p style="text-align: right;">講師 : 宮本 結佳</p> <p>現在、私たちの身の周りにはさまざまなデータがあふれています。子どものSNS利用に関する賛否や、支持政党に関する調査などテレビや新聞、雑誌において多様な調査データが示され、私たちは日々これらのデータに触れて生活しています。さまざまなデータがあふれる現代社会においては、それらを正しく読む力の重要性が増えています。この講習では、さまざまな社会調査の方法について学び、データを読む際に大切なポイントについて理解を深めます。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-1	心と身体の健康Ⅱ	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・中・高・特・養
<p>テーマ : 医教連携による子どもの現代的健康課題への支援のあり方</p> <p style="text-align: right;">講師 : 大平 雅子 講師 : 野澤 正寛(済生会滋賀県病院 救命救急センター)</p> <p>近年、子どもを取り巻く環境は刻一刻と変化しており、それに付随して子どもの健康課題も徐々に変化しています。本講習では、医療・医学と教育の連携を生かして、子どもの健康に関する現代的課題について考えていきます。科学的根拠のあるデータ等のエビデンスや専門知識に基づき、現場において実践可能な健康問題解決の方策を検討していきます。</p>				
<p>テーマ : 学校教員のための精神医学</p> <p style="text-align: right;">講師 : 久保田 泰考</p> <p>教育現場で問題になることの多い精神障害・疾患についての基礎的な知識を習得し、危機介入や治療について理解を深めることを目標とします。具体的には、うつ、双極性障害、自閉スペクトラム、統合失調症などを取り上げ、こころの問題を抱える生徒のために現場において可能な支援・援助について検討していきます。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-2	国際理解教育	6時間	教諭	幼・小・中・高・特
<p style="text-align: right;">講師 : 滝井 未来</p> <p>近年、日本では「外国人児童生徒の増加」や「外国人労働者受入れ」等のことばをよく耳にするようになりました。これは、わたしたち誰にでも「外国籍の人」や「外国にルーツを持つ人」と、日常生活環境の中で接する機会がある可能性を意味します。</p> <p>そこで、本講習では次のような問いかけからスタートしたいと思います。「日本人の当たり前って存在する?」「日本文化ってみんなの共通認識?」「日本語が話せたら当然日本語は教えられる?」—これらの問いにみなさんはどのように考えるのでしょうか。</p> <p>日本人として日本に住み、国内どこに行っても日本語が通じる…このような環境で暮らしていると、わたしたちは、自身の住む国、文化、言語といったものについて改めて深く考えないのではないのでしょうか。</p> <p>本講習では、日本語教育学を専門とする担当教員自身の海外生活の経験や様々な国からの留学生との関わりにおける具体的な事例を取り上げ、一見わたしたちが「共通認識・当たり前」と思っていることについて、考えていきたいと思ひます。</p>				

## 選択領域 その4

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-3	安全で効果的な 体育授業の指導について	6時間	教諭	幼・小・中・高・特
<p>テーマ : 安全で効果的な器械運動の指導方法について</p> <p style="text-align: right;">講師 : 高松 靖(びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>器械運動は、逆位や回転、支持やぶら下がりなど、非日常的な動作を伴う種目であることから、学習者は、普段親しみのない運動を行います。様々な技がある器械運動ですが、一つの運動を覚えるには、段階的指導を行い、予備的技能を習得する必要があります。必要な予備的技能を習得せずに運動を覚えてしまうと、重大なケガにつながってしまう恐れがあります。本講習では、安全で効果的な器械運動の指導方法を、ビデオ講義によって映像も交えながら、スポーツ運動学的立場より考えていきます。 ※ビデオ講義形式の講習を実施します。</p>				
<p>テーマ : 安全で効果的な武道(柔道)の指導方法について</p> <p style="text-align: right;">講師 : 黒澤 寛己(びわこ成蹊スポーツ大学)</p> <p>2012年の学習指導要領改正により、中学校で武道が必修となりました。多くの学校で実施されている柔道授業では、安全で効果的な指導が求められています。本講習では、柔道の指導目標や安全な受身の指導方法についてビデオ映像を使って解説します。また、脳震盪の防止については事例をもとに解説します。 ※ビデオ講義形式の講習を実施します。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-4	体験的環境学習への招待	6時間	教諭	小・中・高・特
<p>テーマ : 水環境の特徴と体験的環境学習の実際</p> <p style="text-align: right;">講師 : 石川 俊之</p> <p>身近な自然を活用した環境学習を考えるうえで、水環境は良い教材になりうる。講義では、まず水環境の特徴を理解し、教材として注意すべき点を考えていき、体験的な学習を行う際の課題やその解決のヒントを考える。 また、プランクトンの観察は採集の場面から体験することによって、顕微鏡の学習のみならず自然環境について学ぶことができ、工夫の余地が大きい内容であるため、事例を通して体験的学習の充実について論じる。</p>				
<p>テーマ : 生物育成学習を考える</p> <p style="text-align: right;">講師 : 森 太郎</p> <p>生物育成(動植物の飼育栽培)学習は、教育現場で頻繁に行われている体験的な環境学習の一つである。本講習では、教育現場での生物育成学習に必要な知識と技術について解説するとともに、生物育成を通じた授業づくりについて実践例を示しながら論じる。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-5	社会科の授業づくりへのヒント -「表現」に着目して-	6時間	教諭	小
<p>テーマ : 「身近な地域」を歩く</p> <p style="text-align: right;">講師 : 安藤 哲郎</p> <p>小学校社会科第3学年および第4学年で扱う「身近な地域」の学習では、「特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など」について「観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする」と指導要領にある。すなわち実際に身近な地域を歩く機会が必要となり、白地図にまとめるといった作業も伴う。そこで、滋賀大学教育学部のキャンパス周辺を「身近な地域」と仮定し、歩いて白地図にまとめる活動について講師の例を通して理解する。このキャンパスはかつて里山であった場所に関われたものであり、周辺には山の神やため池、神社などがあり、「身近な地域」として仮定しやすい。また、それを各学校でも実践できるように考えてみたい。</p>				
<p>テーマ : 「論理」を使いこなす</p> <p style="text-align: right;">講師 : 齋藤 浩文</p> <p>論理的に考え、表現できるということは、学校教育において校種・教科を問わず目指されるべきことであるが、現代社会の諸問題について適切に対応していくための基礎的スキルとして、初等段階の社会科におけるその意義はとりわけ大きいと考えられる。この講習では、論理学を背景として成立したクリティカル・リーズニングと呼ばれる分野を紹介しながら、論理について考えるとともに、論理的スキルの向上を目指す。</p>				



## 選択領域 その5

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
F-8	コンピュータを使った データ処理・分析の基礎	6時間	教諭	中・高
<p>テーマ : データサイエンス及び分析の基礎</p> <p style="text-align: right;">講師 : 岩山 幸治(データサイエンス学部)</p> <p>近年、ビッグデータが様々な分野で利活用され、脚光を浴びています。こうしたデータの利活用には膨大なデータや高度で先進的なアルゴリズムが求められると思われがちですが、そうしたものでなくても、データを適切に扱えば、現状の適切な把握、課題の発見、課題解決のための意思決定に役立てることができます。データサイエンスが学校教育においても注目されるようになってきた中、本講習では、データサイエンスの考え方とデータ分析についての内容を扱います。</p>				
<p>テーマ : コンピュータを使ったデータ処理の基礎と応用事例</p> <p style="text-align: right;">講師 : 齋藤 邦彦(データサイエンス学部)</p> <p>今日、技術の発展により、大量のデータが蓄積されるようになりました。こうしたデータから知見を得て、価値を生み出すのがデータサイエンスという学問です。学校教育においても、データの利活用能力がより着目されるようになってきています。</p> <p>本講習では、ExcelやPython言語を使ったデータの処理における入門的な内容について演習を交えて紹介します。合わせて、様々な応用事例についても紹介します。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
G	国際理解教育と多文化共生	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・特・養
<p>テーマ : 保育・教育活動における多文化共生を考える</p> <p style="text-align: right;">講師 : 永久 欣也(滋賀短期大学)</p> <p>入管法の改正により、家族同伴での入国が認められる外国人労働者が増えつつあり、その子どもたちが地域の幼稚園や小学校等へと入学することによる様々な課題も多く浮かび上がってきています。しかし、幼少期から多文化共生への学びを経験することは国際理解へともつながっていきます。多文化共生の保育や教育のあり方について、現状を理解しながら考えていきたいと思ひます。</p>				
<p>テーマ : 外国人幼児・児童の教育を考える 造形活動の視点とともに</p> <p style="text-align: right;">講師 : 深尾 秀一(滋賀短期大学)</p> <p>外国人労働者の受け入れなどの国際化の影響を受け、地域に外国人幼児や外国にルーツを持つ児童が増えてきています。国内における外国人学校や保育所からも、日本の幼稚園や小学校に転入してくる児童も多くなってきています。このような児童の背景・現状を理解しておくことは多文化共生社会における教育では重要です。外国人児童の置かれている状況と課題について、国内における外国人学校での造形教育を中心に研究した資料や、地域で外国籍児童をサポートしておられるボランティアのお話を参考にしながら受講者の皆さんと共有し考えていきたいと思ひます。</p>				

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
H	子どものくらしを考える	6時間	教諭・養護教諭	幼・小・特・養
<p style="text-align: right;">講師 : 松木 宏史(滋賀短期大学)</p> <p>1. 子どものくらしの実態 なぜいま「子どもの貧困」が注目されるのか。子育て世代が直面している様々な生活困難を題材に、親世代の苦しさが子どもたちのくらしにどう反映されているかを考える。本講習を通して、私たちの心に根差す「内なる自己責任論」をふりかえり、子どもたちや保護者のかかえる「しんどさ」に共感できる視点を模索していただきたい。</p> <p>2. 子どもの貧困を考える 「子どもの貧困・再発見」の年と呼ばれた2008(平成20)年から12年が経過した。現在、「子どもの貧困」はどのような状況にあるのだろうか。本講習では、最初に「子どもの貧困」問題を「貧困な状態にある家庭に育つ子どもの問題」ととらえ、次にその問題を解決するための方策に検討を加え、最後に「子どもの貧困」に対し教育機関はどのような役割を担うことができるかについて考える。</p>				

## 選択領域 その6

☆主な受講対象者 幼:幼稚園教諭, 小:小学校教諭, 中:中学校教諭, 高:高等学校教諭, 特:特別支援学校教諭, 養:全校園種の養護教諭

コード番号	講習の名称	時間数	対象職種	主な受講対象者
J	身近な現象から学ぶ科学	6時間	教諭	小・中・高
講師：徳田 陽明				
<p>児童生徒が日常生活の中で不思議と感じるような現象を取り上げ、科学がどのようにそれを説明するかについて主体的・対話的に学びます。これにより、私たちの生活が科学によって快適、安全、安心につながっていることを理解します。また、身の回りの現象が科学によって説明できることを理解します。講習の先立ってご自身の身の回りの不思議を探して頂きます。講習ではそれらも取り上げて解説します。</p> <p>※ この講習はリアルタイム配信により開講されます。 開講日：令和3年3月7日 時間割：(予定) 9:00~16:45 (認定試験を含む。) 認定試験：記述式 開講形態：Zoomを使用します。事前に招待URLを記載したEメールを送付しますのでご準備ください。</p>				